

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第14号
2024年10月9日
編集・文 吉成正士

(13号からのつづき)

心に響く言葉が、自分を変えた

■今回の全体学習が、今までの学習で一番楽しかったと感じました。グループ内での意見交換中に、初めて私とは対照的な意見を発言してくれた子がいたからです。自分とはまるで反対の意見だったのに、その意見を聞いているときに、すごく心に響くものがあった、今までの自分の考え方が覆されたみたいで、どこかが軽くなった気もしました。悩みをもった相手にどう寄り添えばいいのか難しく考えていたけれど、その子の発言が私のモヤモヤしていた心に寄り添ってくれた気がします。私はこの子に悩みを相談したいと思ったし、今もし何かに悩んでいる人がいるなら、この子に相談してみしてほしいという思いで今回発表しました。めっちゃ緊張したし、終始言葉がぐちゃぐちゃだったと思います。でもそれ以上に今の気持ちをみんなに伝えたい、共有したいという思いでいっぱいだったので、発表できてよかったです。次の全体学習が最後なので、今回できた皆さんの良い経験を生かして、次の全体学習でもその先の高校でも、人権意識を高めていきたいと思っています。

5組HA



その子の発言とは、こうでした。

勝子さんはこのあと、普通に毎日仕事に行って仕事をするってことで、闘ったと思います。闘うっていったらたいそうなことのように聞こえるけど、ただおって、自分がここにいるんだってことを示しているだけで、闘いになるんじゃないかなと私は思いました。もし自分に悩みができれば、人にとにかくしゃべったり、紙に書いたりして、言葉にして出します。悩みってなくならないものだと思って、悩みをなくそうとするんじゃないで、その悩みを認めようとするのが、私の一番の悩みの解決策だと思っています。

6組KN

心に響くって、大切です。それが本や映画やドラマだっているのですが、私は人から響くのが一番好きです。人権教育をしてきて本当に多くの、そんな人に出会ってきました。なかには人権教育に懸命に取り組んできた有

名な人もいますが、生徒の保護者だったり、中学生だったりもします。いずれにしても一生懸命で純粋な、ストレートな思いが胸に響くのです。そんな強い思いにふれたとき、心がドンッと突き動かされて、感動のあまり涙が溢れて止まらないときもあります。そして、自分もそうなりたい！と思い、向上心がむくむくと沸き起こってきます。それが自分の成長につながっているのかもしれない。つまり、人との出会いが私を成長させてきたわけです。皆さんも、そんな人との出会いがあったかもしれません。今までなくても、これからそんな出会いがあるかもしれません。その出会いがどれかなんて分かりませんよね。だから、すべての出会いを大切にします。大切にしていたら、いつかきっと出会います。そんな一つ一つの出会いを、大切にしてください。

意見は違っても、とても楽しい!

■私は今回、「私の目を見て!」を通して思ったことは、やっぱり人権学習を否定的に言われたら腹が立つと思います。今まで一生懸命学び続けてきた人権学習は、班の皆全員意見が違っていても、とても楽しいです。私は全員意見が違うので良いと思います。「悩みに向き合うことが大事」「誰にでも気軽に相談する」と言っていたのが一番心に残りました。やっぱり相談するのは大事なんだと思われました。今まで学んできた学年全体人権学習は、自分のためにもなるし、人と交流や仲を深めるので、とてもいい勉強になるとあらためて思いました。学年全体人権学習はあと1回なので、最後に発表ができればいいと思いました。ラストの人権学習を真面目に取り組んでいきたいです。

4組MA

初めのころ、自分と違う意見を聞くと、感心するし面白いので楽しい反面、自分の考えが変わってしまってもとまらず、困ってしまうことがよくありました。自分の考える範囲が狭かったのでしょうね。でも自分の考えが広がっていくにつれて余裕が生まれ、より深く考えることができるようになっていったように思います。人それぞれかもしれませんが、それぞれの過程を大切に、これからも新たな仲間と共に、人権学習を進めてみてください。最後の学年全体人権学習も、ぜひ発表してください。

つながりがあたたかさを生む

■全体人権学習で語り合う1つ目の内容について発表したかったけど、惜しくも当てられなかったのここに書きます。私は小学校1年生の頃から今まで約9年間、合唱(校外での活動)を続けていて、そのことを弟に「お前まだそんなことしよるん?」みたいな否定的な発言を受けたことがあります。そのときは、とにかく悔しくて、怒りもあったけど、それ以上に悲しかったです。弟は合唱やっていないから、「そんなこと」とか思うし、言うてしまいうんどうけど、納得できないし、「やってないくせになんでそんな扱いできるん!?!」とか、「私は好きでやってるんだから、口出してくん!!」と

か思ったりもしました。自分と同じぐらい大切だから、「それを否定する＝自分を否定される」みたいに思います。相手をリスペクトするということの大切さを実感できました。

また、柳本さんの人権を通して人のあたたかさを知れるという発表から、少しずれているかもしれないけど、私は2つ目の内容を発表した後で、吉成先生が「田村さんの発表について、何か思った人」と聞いたとき、私は内心、「え!?なんでなんで?」と、とても焦っていました。そんな時に、川上さんと藤井さんがフリーで発表してくれて、そのときにすごい安心感とあたたかさを感じました。今回、発表ができてとても良かったです。

5組TK



まずは柳本さんの発言です。

私は人と関わるのが好きになれるって伝えると思います。大雑把に言ってしまったけど、私ならきっとそう言います。2年半人権を学んできて、いろいろな発見や考えが生まれたりしたけど、なかでも私が特に記憶に残っているのは、人権によっていろいろな人と関わったことです。人権の話をしているとき、いつもより少しでも「自分語り」として自分のことを話してくれたり、今まで話したことない子と人権で話をするとき、思ったより意見が似ていてちょっと仲良くなれたり、逆にまったく違う意見でも真剣に話を聞いてくれたり、そういった人権を通して人のあたたかさにもふれることができる、みたいなことを伝えていけたらいいです。

3組YM

そして田村さんの実感としてつながったのが、次の2人の発言でした。

自分も3校体験入学に行き、いろいろ高校の雰囲気とかいろいろ感じることはできたんだけど、高校に入ったときに、自分ももっとどういう感じ方になったのか分からんし、今から5か月もあるし。ほなけん、今めっちゃ悩んでいる。いろいろ考えて、勉強しているいろいろやっとなるけど、結局どこに入っても、頑張るっていうのは一緒だし、楽しむっていうのも一緒だし、今悩むこともめっちゃ大事だと思うけど、悩みすぎんと、自分の決定を応援できるような自分になりたいなと思いました。

6組KN

私も田村さんと同じで、高校体験に3校行ったんですけど、1つめが自分が住んでる所から遠くて、山の方で。でもその学校に通っている先輩たちは頑張ってるって聞いたし、実際体験に行き楽しかったんですけど。親とかにその体験に行き楽しかったよみたいなことを言って。でもその高校山の中やけん、バス通とか自転車で行くと

か、結構通うのが困難で。でもまだ、あと5か月しかないんですけど、もっとじっくり考えて進路に向かっていこうと思います。ありがとうございました。5組FA

人権学習を深めていると、妙に昔のことを思い出します。それは自分がされて嫌なことだったり、自分が人にしてしまった嫌なことだったり。そのことと、そのときしている人権学習が結びついて、苦々しく感じたり、反省したりします。そしてそのどちらもが、自分ができるだけ見ないように避けてきたことだったことに気づきます。人権学習は、その「ふりかえる」ことをしてくれているように思います。「ふりかえる」と、自分の中にある自分の弱さや愚かさ、醜さなど、マイナスな自分と出会います。でも、そんな自分も悪くはありません。「ふりかえる」ことを知性といいます、弱いからダメなのではなく、自分の中にある自分の弱さと向き合えないことがダメなのであり、それを克服しようと努めてきたこの時間が、貴重だったのではないのでしょうか。

次は自分が

■私は今回の人権学習をして、今までは「なぜ差別されるのか」や、「差別されているのを見たらどうするか」などの内容で、自分が差別されたときの質問ではなかったけど、今回は自分が経験したことや自分がされたときどうするかという内容の質問があって、一番自分に関わりがありそうな問いのように思いました。私は2番の問いで、もう一度本人にもお礼を言いたいと思うことがあって。私は悩みや不安があっても一人で抱え込むタイプだから、相談するとか苦手なんですけど、唯一勇気を出して相談できた子がいて、私はその子の前で泣きながら不安なことをすべて打ち明けられました。それができたのは相談に乗ってくれた子がいてくれたからだと思います。私はその子に言われて嬉しかったことがあって、「泣け泣け、我慢せずにいくらでも泣け」や、「気づいてあげれなくてごめん。いつでも頼ってな」と言ってくれたことです。私はそれを言われて嬉しかったし、その子のおかげで少し前向きに考えることができました。今でもその子には感謝してるし、ものすごく気が楽になりました。その子にはもう一度お礼を言いたいです。そして、私も誰かに相談されたときに、相手の気持ちを少しでも楽にしてあげたいし、いつでも頼ってもらえる人になりたいです。

5組KR

こんな文を読んでいると、自分がへこんだり、苦しく泣いたりしたときのことを思い出します。人生は順風満帆なときばかりではありません。人それぞれに悲しいことや苦しいことがあります。最後は自分の力で前を向くのですが、そうなるまでの過程で、励ましてくれたり、支えになってくれたりする人の存在は本当に大きいものです。その人の存在なくして、今の自分はないというくらい大きいものです。「人生の宝物」と言っていきたいものです。

よく、親に「恩返し」はできないと言われます。それはあまりにも大きすぎて、返せるものではないと。だから人はその代わりに、別の誰かに「恩送り」をするのだと。誰かからもらった恩は、その人に返すことも大切ですが、返しきれない代わりに、他の誰かに送るのです。その「恩送り」が、人と人との大切なつながりをつくっていくのかもしれない。(15号につづく)